

そして待ちうけるテスト。GW明けの第一回人体解剖学のテストで洗礼をうけ、続いて組織学、生化学、骨学と、寄せては返すテストの波をなんとか、多分、おそらく、皆無事に乗り越えていることでしょう。

添付の写真は、先日の組織の授業の様子です。組織各論の授業に入る前に、TBL (Team Based Learning) を行いました。総論で得た知識を使って、組織全体の構成を見ながら、どのように器官を推測し同定するのかを、2,3人一組のグループを作って調べ学習やディベートを行いながら、学んでいくスタイルの講義でした。捕らえどころのない組織学の正しい学習法を学んだ気がします。

とにもかくにもにぎやかな学年です。まだまだ始まったばかりですが、これからの学校生活も楽しく過ごせていけたらいいなあと思います。

## 医学科 1 年次近況報告

杉 本 龍志朗 (1 年次)

私たち33期は、男子73人・女子38人の計111人で、そのうち約半数が県外出身であり、再受験生も多いため、出身地・年代ともに様々な人が集まりました。入学して約2か月が経ちましたが、正直なところ、まだ学年全員の顔と名前が一致していないのが現状です。各部活・サークルや医学科の先輩方が企画してくださった新入生歓迎会などを通して先輩方とだけでなく、1年生同士も徐々

に親睦を深めています。また、県外出身の人が多いこともあり、大学周辺で一人暮らしをしている人が多いため、家が近い人同士でお互いの家に遊びに行ったりして、慣れない新生活の中、助け合いながら友情を深めています。

学業面では、今年度からカリキュラムが変わったため、1年次からシミュレーション演習や解剖学など、専門教科が例年以上に入りました。そのため、すでに教科書を購入して自分で勉強を始めている人も少なくなく、受験勉強からの解放感が抜けない部分もありますが、医学の専門的な授業も多くあることから、全体としては勉強がおそろかになっている雰囲気はなく、むしろ毎週の授業を楽しみにしている人も多くいます。

入学する前からの先輩方の熱烈的な勧誘活動のおかげか、1年生の大半がなんらかの部活・サークル等に所属しています。それによって、横のつながりだけではなく縦のつながりも出来つつあり、交友関係を広げております。先輩方は、学業や課外活動だけでなく、大学生活全般について、親身になって相談に乗ってくれたり役立つアドバイスをくれたりと、積極的に交流を持ってくれるため、入学して間もない私たちにとってはとても頼りになり、心強い存在です。

これから6年間、琉球大学医学部医学科の一員として、同じ「医師になる」という強い思いを持った仲間と協力し合い、学年全体で切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

